

本年のまとめと来年への希望 その4

本当に、2019年が過ぎようとしている。2020が来てしまう。退職の年が来てしまうのだ。その準備は、少しずつしていきます。

P T A会報原稿

令和元年度本校卒業生の皆さん、御卒業誠におめでとうございます。本校での学びを終了し、新たな路へ旅立とうとするその姿に、心からの祝意とこれからの人生における可能性へ大いなる期待をもって送り出したいと考えます。

また、卒業生の生徒たちをこれまで支えていただきました保護者の皆様方、地域の皆様方、関係者の皆様方に改めて心からのお祝いと感謝を申し上げたいと思います。

本校での彼ら彼女らの生活を二年間見守り続けることができたことは、私にとってとてもうれしいことありがたいことでありました。朝の登校時から、教室や体育館や校庭での授業風景を始めとして、様々な行事における校内郊外での活動を垣間見ることの幸せを、今、痛切に感じております。

私も、この卒業生とともに、この3月末日をもって、共に卒業できることは、何物にも代えがたい勲章です。日々、様々な場面で言葉を交わし、表情でその心持を図り、笑顔をもって返していただいた数えきれない思い出は、私の今後の歩みにおいても、大きな心の支えとなることです。

これまで私は、授業を第一とし、時間をきちんと守り、お互いをリスペクトする事の大切さを言い続けてきました。この基本を身に着けてからの教育活動が実践されることに、いついかなる時もこの社会を支えていこうとする「志」と「魂」が根付くのだと確信しておりました。決して妥協せず、粘り強く課題解決に向かいながら、じりじりとした時間を過ごす中、時にはユーモアを口に出し心を和ませ、それでも突きつけられる孤独の時間をそれぞれが突破して、協働のためのコミュニケーション能力を育み、人とどうつながるのかをいつも考察し研究してやまない集団形成こそ、磐城高校生が身に着けるべきことだと思うからでした。

卒業生たちは、間違いなく、この学び舎でそれぞれの「志」と「魂」をはぐくみ、世の中に旅立っていこうとしております。

卒業生は、今在学している1, 2学年の生徒たちを含めて、周囲と連携し、人々と手と手を取り合って、いわきや福島の復興・再生を支え、A I時代の国を支え、グローバル化した世界を支えて行くことができるように、心から願っております。そして、生徒たちは、必ずやってくれると信じます。

同窓生の皆様、保護者の皆様、地域の皆様には、引き続き本校教育への御理解と御協力をお願い申し上げます。本当にありがとうございました。